

全国協議会 ニュース

2009年2月1日発行
第200号

発行所
特定非営利活動法人
全国骨髄バンク
推進連絡協議会
〒160-0005 東京都
新宿区愛住町23-1
Woody21-9階
TEL.(03)3356-8217
FAX.(03)3356-8637
発行責任者:中野勝博
http://www.marow.or.jp/
E-mail:office@marow.or.jp

郵便振替口座
00150-4-15754
銀行口座
三井住友銀行 新宿通支店
普通 5666655

第5回役員選挙第2回告示

昨年10月20日付の第1回告示が行われた全国協議会の第5回役員選挙は、1月20日の立候補締切までに、別掲の通り推薦理事4名と公募理事9名の合計13名の立候補がありました。これを受け、選挙管理委員会(二見茂男委員長)は、以下の通り1月26日に第2回告示を行いました。

1. 投票を行わない推薦理事について
北海道、東北北陸の各ブロックにおける推薦理事の立候補者は定数と同数であり、また関東甲信越、九州ブロックについては定員2名に対し、立候補者が1名であったために、役員選考規程第11条第2項の定めにより、投票は行わず立候補者は推薦理事の有資格者となります。

2. 投票を行う推薦理事について
公募理事は定数9名のところ、9名の立候補者がありました。役員選考規程第11条第4項ならびに選挙細則第5条第2項の定めにより、全会員による投票を行い、最低得票数(有効投票者数の1/3)以上の得票を得た候補者を当選人とします。

3. 公募理事の選挙(投票)について
公募理事は定数9名のところ、9名の立候補者がありました。役員選考規程第11条第4項ならびに選挙細則第5条第2項の定めにより、全会員による投票を行い、最低得票数(有効投票者数の1/3)以上の得票を得た候補者を当選人とします。

4. 役員選考委員会の設置について
会長、副会長、監事、東北近畿、中四国ブロックにつき

第5回役員選挙 立候補者一覧

●推薦理事候補者(定数9名)

ブロック	氏名	所属団体名
北海道(1)	加藤 弦	北海道骨髄バンク推進協会
関東甲信越(2)	野平晋作	千葉骨髄バンク推進連絡会
東北北陸(1)	川瀬和子	静岡骨髄バンクを推進する会
九州(2)	中村福代	みやざき骨髄バンク推進連絡会議

東北、関東(1)、近畿、中四国、九州(1)は立候補なし

●公募理事候補者(定数9名) ※届出順

氏名	居住地
1 村上忠雄	神奈川県秦野市
2 和泉屋 浩	埼玉県川口市
3 小川真理	北海道釧路市
4 四方田 淳	宮城県仙台市
5 菅 早苗	秋田県由利本荘市
6 齋藤江美子	福島県福島市
7 高橋めぐみ	埼玉県深谷市
8 溝口理文	千葉県千葉市
9 中野勝博	岐阜県美濃加茂

※ホームページ(URLは発行責任者名の下に記載)では、候補者のプロフィール、所信も掲載しています。

「キット不足問題」緊急署名活動へのご協力に感謝!!

昨年末に発覚した、骨髄採取キット在庫不足問題に危機感を覚えた全国協議会では、関係団体と連絡を取り合いながら、舛添厚生労働大臣宛に迅速な対応を求めるべく「採取骨髄濾過キット在庫不足問題に関する情報公開と未承認キット使用による患者負担増加回避を求める要望書」として緊急署名活動を行いました。詳しくは3月号で報告いたします。

6. 投票方法

- 投票者無記名式による、郵送などの通信制です。
- 定数分の候補者名を記入する連記投票です。

通巻200号到達

全国協議会ニュースが、通巻200号に到達しました。創刊は1990年7月で、毎月の定期発行になったのは93年の6月からでした。皆様の中には、創刊以来の全号を保存されている方も、きつといらつしやるでしょう。バックナンバーを手にとると、この協議会ニュースがその時々骨髄バンク事情を映し出す鏡であると同時に、良きにつけ悪しきにつけ、当会の歩みを後世に語り継ぐ役目も担っていることを実感せずにはいられません。

会報創成期からの思い出

笠原慶一

インターネットが普及し、ペーパーレスが叫ばれる中にも、紙に印刷された会報に優るものはない、と思っています。協議会ニュースの200号到達、「おめでとう」「ありがとう」「お疲れ様」です。

創刊号から100号までの縮刷版(II)を見ながら、思い出話をいくつか紹介したいと思います。

創刊号の発行は90年7月28日で、同年6月24日の全国協議会結成総会の模様掲載されています。創刊から第5号までは、当時事務局員だった町田孝夫さんや千葉純子さんが作成していました。

私が担当させていたのは、92年4月の第6号からで、当時事務局員だった中野義樹さんと二人の作業でした。ワープロで文字を印刷し、それを版下用紙に貼り付けるという、文字どおりの手作業でした。

第6号には、骨髄バンク開始記念シンポジウムの様子や、3月末のドナー登録者数が全国で3,218名であったことが掲載されています。ちなみに、当時の加盟団体数は16でした。

第9号からは、野村正満さんも編集に加わり、毎月、定期発行が定着するようになりました。怒りっぽい野村さんに、叱られながら作業に励んだことが思い出されます。

その後、千葉の会の木村紀さんや山本順子さんが加わり、毎月、浅草の事務局で夜遅くまで編集する体制が長く続きました。が、遅くなっても必ず、一杯飲んで帰りました。

2つの質問書に対する財団からの回答書

全国協議会より財団に対し、昨年12月22日付けで2つの質問書を出したことは、前号(第199号)で報告したとおりです。

これに対し、12月26日付けで、

正岡・財団理事長名での回答書が届きましたので、ここに報告させていただきます。

こちらから提出した質問書の主旨を、ご理解いただけていないのではというのが、質問書作成に際しては、正岡理事長におかれましては、これを念頭におき、今後、様々な場面で対応してゆくこととなります。

以来、私が理事長になる2001年の7月まで、103回の編集に携わりましたが、「編集長」とは名ばかりで、皆さんに助けられての9年間でした。

編集企画での思い出は、「各地のたより」は当初からのもので今も続いています。が、「シリーズ・ドナー登録者の声」は4回続き、当時の要望の「声」

また、患者の入院生活を描いたマサコマサオさんの「D.R.アイくん」とドナー体験を描いた大川はるみさんの「ドナーちゃん」のマンガは、今読んでも心

温まる笑いがあり、好企画でした。以上、200号までの前半部分の思い出を紹介しましたが、「怒り」を活動のエネルギータにすることなく、ドナーの優しさと患者が直面する厳しさを常に見つめて、理事会と加盟団体の架け橋となる会報作りにより、一層努めていただきたいと思います。

2008年12月22日付貴協議会からの質問に対する回答について

拝啓 師走の候、貴職におかれましてはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。さて、「骨髄移植10000例・さい帯血移植5000例ありがとうキャンペーン」実行委員会における貴財団出席者の対応について、および「MONTHLY REPORT12月15日号掲載記事について」という題で、貴職よりご質問を文書で拝受しましたので、下記の通りご回答いたします。 敬具

記

「骨髄移植10000例・さい帯血移植5000例ありがとうキャンペーン」実行委員会における貴財団出席者の対応について

質問1. 実行委員会における貴財団常務理事の発言は、貴財団としてオーソライズされた公式見解として理解してよいのでしょうか。

回答 標記の実行委員会へは平井常務理事が財団を代表して出席していますので、財団の見解と理解して頂いて構いません。

質問2. 貴財団常務理事の実行委員会における態度は、貴財団の渉外のあり方として妥当なものとお考えでしょうか。

回答 同実行委員会は、そもそも日本さい帯血バンクネットワーク、貴協議会と財団がそろって合意できるようなイベントを検討するという会議でした。その中で、貴協議会のある方のご提案については、財団として賛成しかねるものであったため、財団を代表して常務理事が理由とともにそれを述べさせていただきました。貴職が述べられているように、「それぞれの組織にはそれぞれの立場・意見があるのは当然であり、それにより必ずしも合意に至らないことはやむを得ない」ので、妥当なものと考えます。しかしながら貴財団とコミュニケーションを深めていくことはお互いに重要なことであるので、ボランティア連絡会の場で意見交換してまいりたいと存じます。

質問3. 貴財団の今回のような対応は、骨髄バンクの普及推進に悪影響を及ぼしかねない危惧しております。今後、貴財団が関係機関とどのような関係を構築していきたいとお考えでしょうか。また、そのためにどのように取り組んでいくおつもりでしょうか。

回答 骨髄バンクの普及啓発は極めて重要であり、そのため対等な団体間の公正かつ信頼できる関係の構築が必要です。そのためには、貴団体を始めとする骨髄バンクを支援して下さる関係団体との連携を密にして、相互のコミュニケーションが円滑に行われるよう今後とも

骨髄第20-411号
2008年12月26日

財団法人骨髄移植推進財団
理事長 正岡 徹

2008年12月22日付貴協議会からの質問に対する回答について

拝啓 師走の候、貴職におかれましてはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。さて、「骨髄移植10000例・さい帯血移植5000例ありがとうキャンペーン」実行委員会における貴財団出席者の対応について、および「MONTHLY REPORT12月15日号掲載記事について」という題で、貴職よりご質問を文書で拝受しましたので、下記の通りご回答いたします。 敬具

記

「骨髄移植10000例・さい帯血移植5000例ありがとうキャンペーン」実行委員会における貴財団出席者の対応について

質問1. 実行委員会における貴財団常務理事の発言は、貴財団としてオーソライズされた公式見解として理解してよいのでしょうか。

回答 標記の実行委員会へは平井常務理事が財団を代表して出席していますので、財団の見解と理解して頂いて構いません。

質問2. 貴財団常務理事の実行委員会における態度は、貴財団の渉外のあり方として妥当なものとお考えでしょうか。

回答 同実行委員会は、そもそも日本さい帯血バンクネットワーク、貴協議会と財団がそろって合意できるようなイベントを検討するという会議でした。その中で、貴協議会のある方のご提案については、財団として賛成しかねるものであったため、財団を代表して常務理事が理由とともにそれを述べさせていただきました。貴職が述べられているように、「それぞれの組織にはそれぞれの立場・意見があるのは当然であり、それにより必ずしも合意に至らないことはやむを得ない」ので、妥当なものと考えます。しかしながら貴財団とコミュニケーションを深めていくことはお互いに重要なことであるので、ボランティア連絡会の場で意見交換してまいりたいと存じます。

質問3. 貴財団の今回のような対応は、骨髄バンクの普及推進に悪影響を及ぼしかねない危惧しております。今後、貴財団が関係機関とどのような関係を構築していきたいとお考えでしょうか。また、そのためにどのように取り組んでいくおつもりでしょうか。

回答 骨髄バンクの普及啓発は極めて重要であり、そのため対等な団体間の公正かつ信頼できる関係の構築が必要です。そのためには、貴団体を始めとする骨髄バンクを支援して下さる関係団体との連携を密にして、相互のコミュニケーションが円滑に行われるよう今後とも

骨髄バンクののぼりが青空にはためく

すっかり恒例となりました箱根駅伝でののぼりを掲げての啓発活動ですが、正月晴れの中、今年も多くの方々の協力を得て、各所の沿道に「骨髄バンク」ののぼりがはためきました。

1月2日、8時のスタートからおおよそ5分ほどの御成門駅交差点付近には、ブルデンシヤル生命保険第5支社の社員とご家族の方々が集まってくださり、80本余りののぼりが沿道を埋め尽くしました。テレビで観戦頂いたみなさんの中には、スタート早々から選手集団の背景にはためく、真っ赤な骨髄バンクののぼりに気づかれた方も多かったことと思います。

宮ノ下に響き渡る「骨髄・バンク」

昨年引き続き、今年の箱根駅伝も、2日の往路5区は、宮ノ下・富士屋ホテル前の緩やかなS字カーブの歩道上で観戦、普及啓発、そして写真撮影を行った。

毎年、数々の名勝負、そしてドラマが生まれる山のぼりの5区。しかし、ドラマの主役は、鍛えぬかれ、選ばれた選手たちだけではない。全長108kmの往路の中で、ここ宮ノ下のコース沿いは、沿道の一般市民も主役になれる、稀有な場所ではないかと思う。数量限定ながら宮ノ下商店街の皆様のご好意で市民に振舞われるシチューパンとともに、すっかり宮ノ下名物として定着している独特の応援スタイルがあるからである。そこでは、個々の選手の名前を、沿道の市民が声を合わせて、分け隔てなく呼びかけるのである。それぞれに、ひいきの選手や大



5区 箱根宮ノ下 選手の名前がこだまする

学があるかもしれないのに、ここ宮ノ下に集う観客は、不思議な連帯感に包まれる。〇×大学の△選手を応援するのと同様に、いや、それ以上に、箱根大学駅伝そのものを愛し、応援したいと思うからに違いない。

選手の到着を待つ間に、選手の名前を呼ぶ練習が行われた。その際、選手の「姓・名」の代わりに使われたのが「骨髄・バンク」である。初めこそ遠慮がちで、しかもバラバラだった発声が、次第に調和し、ポリリズムをあげてゆく。やがて、沿道を埋め尽くす大観衆が「骨髄・バンク」「骨髄・バンク」と口々に叫ぶ。骨髄バンクボランティア活動の長い歴史の中で、たとえこのような形であるとしても、「骨髄・バンク」の大合唱が巻き起こったのは、ここ宮ノ下において他にはないのではと思う。

今年も上宮高等学校からマイレージ寄付



同校の特別コースの生徒さん39名が、修学旅行でNW航空を利用してボストンを往復された際に取得した約55万マイルを全国協議会にご寄付くださり、その御礼に伺ったものです。

1月8日、始業式にあたるこの日、ノースウエスト(NW)航空の高橋様、JTB西日本の胎中様と共に、大谷会長が上宮学園上宮高等学校(大坂市)を訪問し、感謝状を贈呈して参りました。

同校の特別コースの生徒さん39名が、修学旅行でNW航空を利用してボストンを往復された際に取得した約55万マイルを全国協議会にご寄付くださり、その御礼に伺ったものです。

各地のりお寄せください

石巻 「さつと」の笑顔が大反響デビュー

「さつと」の笑顔が大反響デビュー



1区 御成門付近 いまだ集団は崩れず

取材ヘリの爆音が近づいてくる。12分後、先導の白バイに追いつかんばかりの速度で、二人の選手が目の前を駆け抜けていった。白文字で骨髄バンクと染め抜かれた赤いのぼり旗が、一斉に打ち振られた。

(協議会・品川)

石巻 「さつと」の笑顔が大反響デビュー

「さつと」の笑顔が大反響デビュー

各地のりお寄せください

各地のりお寄せください

心からのご寄付に感謝申し上げます

12月21日~1月23日

㈱タクトコーポレーション	現金	10,000円
㈱エアネット	現金	92,700円
第一生命保険労働組合神戸支部	現金	36,200円
エグゼキューブ㈱	現金	10,150円
セリア音楽教室 渡辺はぎの	現金	50,000円
たっくママの投稿募金	現金	22,038円
櫻井康司	現金	20,000円
相河祐子	現金	10,000円
山本和広	現金	30,000円
長谷川緑	現金	5,000円
塩谷 圭	現金	1,000円
山田康博	現金	9,880円
鈴木純子	現金	1,340円
飛田行康	現金	5,000円
田島香雪	現金	1,000円
伊藤史郎	現金	5,000円
大森青児	現金	10,000円
飯島孝枝	現金	2,240円
川名紀子	現金	10,000円
山本英一	現金	5,000円
関口栄三郎&富子	現金	20,000円
ダブルエースタイガー	現金	50,000円
GAROのお客様	現金	9,800円
GAROマイステージボックス(大平・春上・松沢・本間・井手・川尻・船木・高橋・北村・君和田・嶋村・佐藤・鴨下・北浦・保利)	現金	11,055円
匿名	現金	5,000円
匿名	現金	2,000円
匿名	現金	1,012円
●白血病患者支援基金	現金	11,000円
やきとり おばこ	現金	11,000円
つけ麺処 かつやいな	現金	3,432円
沼津店	現金	2,132円
御殿場店	現金	3,129円
小田原店	現金	1,001円
三島店	現金	3,151円
環七通り店	現金	2,162円
原宿店	現金	2,737円
創作ダイニング 火と水大地	現金	1,296円
沼津応援酒場	現金	15,000円
キッチンオネオネ 若山暁生	現金	1,000円
小林倫代	現金	20,000円
●佐藤さち子患者支援基金	現金	10,000円
会津ユネスコ協会	現金	3,000円
土肥敏朗	現金	5,000円
匿名	現金	(敬称略)
匿名	現金	(敬称略)

活動資金の援助をお願いします

銀行口座
三井住友銀行 新宿通支店
普通 5666655
郵便振替口座
00150-4-15754
特定非営利活動法人
全国骨髄バンク推進連絡協議会

ありがとうキャンペーン協賛金・寄付 (12/21~1/23)

中熊千香	5,000円
中村信	10,000円
改田耕一	3,000円
池井元	3,000円
尾西ライオンズクラブ	5,000円
瑞浪桔梗ライオンズクラブ	30,000円

(敬称略)



鹿兒島県立吉田南中学校2学年では総合的な学習として、

鹿兒島 総合学習でのドナー体験談と街頭募金

募金は前回同様、全国協議会へ寄付していただきました。どうもありがとうございました。

(牧園)

骨髄バンクの最新情報をお知らせする——骨髄バンクNOW

(財団マンスリーレポート(1月16日発行)より抜粋)

●平成20年のドナー登録者数及び移植数
平成20年(1~12月)の新規ドナー登録者数は38,481人で、前年(38,440人)と比較して微増となりました。累計では329,247人(12月末現在)となっています。

また、平成20年12月に累計1万件に到達した移植数は年間では1,104件となり、前年の999件を105件上回って、過去最高の件数となりました。

●平成21年度移植対策関係予算当初内示
平成21年度移植対策関係予算が内示されました。厳しい財政事情を反映し、骨髄移植対策については11億3,700万円と、平成20年度に比べ3,700万円の減額となりました。このうち、骨髄移植推進財団に対する骨髄移植対策事業費については4億4,071万9千円で、平成20年度に比べ2,300万円余りの減額となっています。

●12月の区分別ドナー登録者数
12月の区分別ドナー登録者数は、献血ルーム/1,769人、献血併行型集団登録会/1,476人、集団登録会/98人、その他/222人でした。

◆日本骨髄バンクの現状(平成20年12月末現在)

	11月	12月	現在数	累計数
ドナー登録者数	3,996	3,565	329,247	417,071
患者登録者数	187	196	2,389	26,588
骨髄移植例数	101	78	—	10,069
20歳未満ドナー登録者	—	202	9,072 ¹⁾	—
51歳以上ドナー	227 ²⁾	120 ³⁾	13,175 ⁴⁾	—

注) 数値は速報値のため次月以降に訂正される場合があります。
1) 17年3月~ 2) 51歳以上ドナーの延長数
3) 51歳以上ドナーの新規登録数 4) 17年9月~

2006年12月に骨髄バンクPRの街頭活動を行ったところ、意外にも2万円近くの募金が寄せられましたので、今回は12月18日の午後の時間を全部あて、骨髄提供者の体験講話と街頭活動をセットに行いました。

予め担任の先生から骨髄移植についての基礎的な授業はなされていなかったので、ドナーである宮田艶子さんに登録動機と提供後の感想などを話していただきました。骨髄バンクへのコースを選んだ15名の生徒にとって、自分たちのお母さんと同年代の主婦の方の体験談を聞くことによって、骨髄バンクが身近に考えられるようになったようです。

講話の後、バスで市街地のスパーへ移動し、一時間半の募金活動で3万円余りの募金を頂いたことで、生徒達もボランティア活動がとて楽しかったと感想文を寄せていただきました。

募金は前回同様、全国協議会へ寄付していただきました。どうもありがとうございました。

(牧園)

第83回理事会報告

1月18日 全国協議会事務局

- 協議事項
共催・名義後援・減免申請等の承認案件
 - 2009年度総会・代表者会議について
 - 公開フォーラム開催について(報告事項)
 - 財団関連
 - 部会報告
 - 箱根駅伝での普及啓発活動について
 - 骨髄バンク支援オークション
●ありがとうキャンペーンについて
 - ブロックセミナーについて
 - 役員選挙について
 - 白血病フリーダイヤル受付状況
 - 「佐藤さち子患者支援基金」受付・給付状況
 - ドナーサポートダイヤル受付状況
 - NWAチャリティメール提供状況
- 今後の予定
2009年3月15日 第84回理事会